

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット／1ユニット)

事業所番号	2790300111		
法人名	株式会社エフ・エム・シー介護サービス		
事業所名	グループホーム FMC大利ホーム		
所在地	大阪府寝屋川市北大利町19番10号		
自己評価作成日	令和4年11月22日	評価結果市町村受理日	令和5年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和5年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域福祉の重要性を感じ、介護理念・介護十訓を基に入居者様と笑顔絶えない生活をするを大切にしています。入居前の生活が継続できるよう、家庭的な環境のもとで、心身の特性を踏まえ、認知症状の緩和や悪化の防止を図り、自立した日常生活を営むことができるよう援助している。スタッフと一緒にできることはして頂きながら生活をしています。その方一人一人に合ったレクリエーションを見つけ、個々の対応を大切にしています。また、その人らしさを大事にし、生きがいや誰かのために何かをする。そういった気持ちを尊重しお互いに助け合う・協力し合うことを目指したホームを心がけています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の代表者は親族の介護を経験する中で高齢福祉・認知症介護の必要性を感じ異業種より参入し、デイサービス・有料老人ホーム・グループホームへと事業を展開し20年になる。当事業所は1階に小規模多機能型居宅介護を併設して2ユニットで開所して10年になる。異動で着任間がない管理者は笑顔の絶えない利用者らしい生活をして欲しいと、職員と意欲的に利用者の自立した日常生活への支援に取り組んでいる。コロナ禍の中でも家族の面会を実施し、お正月には自宅に外泊したり、近くを散歩したりドライブでお花見を楽しみ、利用者の笑顔に繋がる支援に取り組んでいる。又家族・利用者の望む終末期の支援のため職員に動画研修の機会を設け、何時でも見られ勉強になると若い職員も介護職としての希望を語りチームワーク良く業務についている姿がみられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	面接、新人教育を通し、施設の考え方を伝え、生活・身体ケアを通して施設理念に添うように指導している。毎月の会議では入居者様のケア理念に添っているかを再確認、修正等を行っている。	事業所理念は「家庭的な雰囲気の中で1人ひとりの人権と個性を大切にして自分らしく自立した日常生活を送り地域との交流を大切にする」とし、フロアや職員室に掲示し毎月の職員会議で取り上げて確認している。職員は理念をカードにして名札と共に所持し、意識して実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設・地域役員を中心に情報共有を行い、相互理解・相互協力の体制をとっている。地域に溶け込む支援を行っている	自治会に加入し地域の情報を受けている。地域の秋祭りの神輿に立ち寄ってもらい利用者は楽しんでいる。散歩時に挨拶を交わしたりなるべく地域のお店で買い物をし地域の人と積極的な交流に努めている。玄関前に「介護なんでも相談」を掲示して相談事を受け入れる用意をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学時には、施設内の設備、入居者様の生活状況やケア方法等、日々を通して経験していることをお伝えする。また、介護なんでも相談所として、介護全般、認知症のことなどを知って頂くよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で現在は書面にての開催で意見交換を行っている。地域からの要望なども聞き、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は2か月に1度自治会長・婦人部長・民生委員・地域包括支援センターにコロナ禍で書面開催として、事業所の現況報告を届け意見を貰って運営に取り入れている。	年6回の書面開催として関係者に現況報告をしているが、頂いた意見を記載した報告書の作成をして家族に送り、運営推進会議の議事録を公開することを望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	寝屋川市高齢介護室や保護課、地域包括支援センターと積極的に連携・連絡をとり、指導監査課の基、サービス向上に取り組んでいる	高齢介護室に申請や相談に出向いたり生活保護課に報告をしている。保健所対策室と感染対策の情報を得たり感染予防のフェイスシート・マスク・手袋・消毒液の支給を受け抗原検査キットの配布を受けている。キャラバンメイトの研修に参加し認知症サポーターに参画予定でいる。地域包括支援センターと連携し書類の提出に出向いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は入居者様の安全を考慮し施錠している。勉強会を通して身体拘束について知識・理解を深めている。エレベーターは自由に使えるようにしている。	身体拘束のマニュアルを用意し研修を年2回実施している。身体拘束訂正化の為の指針を作成し、3か月に1度身体拘束等の適正化の為の委員会を開催して、職員は会議で資料を確認してレポートを書いている。スピーチロックや行動制限について具体的に話し合い、事例を用い身体拘束しないケアに努め、エレベーター・フロア間は自由に行き来出来る。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と虐待を別のものと考えず勉強会に参加し防止の徹底に努めています。スタッフ同士でも注意しあうようにしています。また入居者様のボディーチェックを細目に行い、傷や内出血等見られれば報告し原因追及に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用されている方はいない。勉強会の中では取り入れており、今後必要な時は支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、書類を基に1項目毎に説明を行い契約を結んでいる。入居者様・ご家族様に不安・不利益が発生することの無いよう対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情箱の設置をしている。入居者様・ご家族様からの要望や意見に関しては、迅速な対応・問題解決を心掛け、入居者様・ご家族様の不安を早期解消できるように努めている。また、契約書内に施設への苦情・要望を取り扱う行政を明記している	家族に各月写真を載せたFMCだよりを送り、訪問時や電話で意見や要望を聞いている。聞いた意見は苦情ファイルに記録し会議で話し合い、職員の顔が分からない要望には、入り口に職員の写真を貼り、面会の要望にビデオ面会の工夫などの対応をしている。利用者からの言葉はその言葉で介護記録に記載して皆で共有し支援に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のフロア会議やリーダー会議などで意見交流を行うが、スタッフ一人一人に直接意見を求め、それぞれの思い・意見を運営に反映する為に面談を行っている	毎月職員会議を開催して意見を言い合え何時でも意見が言える。年2回管理者面談の機会があり、相談をしたりアドバイスを与えたり、資格取得の情報を伝えている。職員は感染・虐待・看取り・研修の委員会を受け持ち法人の動画サイトで研修を受けてテストで確認し、意識向上に繋げいつでも勉強できる体制である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の事情・個性・勤務態度を把握し柔軟に対応している。スタッフ一人一人の意見を受入れできる範囲の中で環境整備・業務改善に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、スタッフ個々の介護技術・コミュニケーション技術のレベルの把握をしており、研修や講習会の案内などがきたら、希望があれば誰でも参加できるようにしている。また、必要な研修があれば、受講してもらい、スタッフから相談があれば、個別対応を実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括主催の近隣他施設との交流会に参加している。ネットワーク会議や地域ケア会議に参加するなど、交流・意見交換を行い、施設運営の参考になっている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時、ご家族様からの情報を基に自宅及び病院に訪問しご本人と面談を行う。本人の生活環境、本人の気持ちを時間を掛け、傾聴し、不安・緊張感を与えない丁寧な対応を心掛けている。また、ご本人が発信できる言葉を汲み取り、状況判断を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	環境が変わる事でご本人ご家族様共に期待・安心・不安を抱える事となる。ご本人を中心に相互が理解し合える関係性を結べるように時間をかけ傾聴するなど努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時は、環境の変化への戸惑いが大きい為、様子見対応に徹し、入居者様を理解する。介護支援のみで良いのか、医療・生活全般が必要なのか、ご本人・ご家族様と密に話し合っている。また、身体的安心を確保する為、往診医による診察を受けて頂く		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何をするにも入居者様の意見を聞き、ケアに反映している。できることは積極的に行って頂き、需要・共感・認めることで意欲の向上・自尊心の向上につなげている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には状況報告を行っている。言葉掛けには細心の注意を払うとともに、積極的に面会・ケアへの参加を促し、入居者様の状況受入れとご家族様に寄り添うように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で難しい状況ではあるが、時間に関係なく面会を受け入れるようにしている	何時でも連絡をして面会が出来、家族や親戚・知人（喫茶店のお客さん）が面会に来てくれる。親子の入居者の人に交流の支援をしたり、階下の小規模多機能の利用者と面会をしている。感染終息後は利用者の行きたい要望を聞き個別支援の取り組みをする予定でいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様それぞれに個性があり、同フロアに いるだけで親交が深くなるとは限らない。レク リレーションや食席の配置などで相互に関わ りを持てるような雰囲気づくりに工夫したり、 良い方向に入居者様同士が理解できるよう に職員が間に入りクッション材の役割を果た している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまで の関係性を大切にしながら、必要に応じて本 人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努 めている	契約終了後もご本人・ご家族様がいつでも来 所できる環境づくりを目指している。また、ご 家族の介護の相談なども受けるなど良い関 係に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の 把握に努めている。困難な場合は、本人本位 に検討している	ケアの度、ご本人の意向を確認し、個別ケア は実践できている。意思疎通が難しいご入居 者様は、ご家族様と職員の意向を出し合い、 ケアの方向性を模索している	階下の利用者が多く馴染みの関係者が多 い。家族と話し合い面談や見学後入居を決 めており、家族から利用者のしたい思いを聞 きフェイスシートを作成している。利用者の様 子や会話から思いを把握して利用者の思い に添えるよう支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生 活環境、これまでのサービス利用の経過等の 把握に努めている	入居前のご家族との面談時及び担当の介護 支援専門員などから情報収集している。入居 者様それぞれのこだわりを大切に、出来る 限り受入れ対応している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有 する力等の現状の把握に努めている	情報収集から見出した入居者様個々の状況 に応じた介護支援をするよう、ご本人の体調 や精神面、認知症進行を考慮しケアに努め ている。ご本人なりのできる事が長く続くよう に統一したケアを徹底している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は入居者様の体調面・精神面での様子観察を行い、介護記録に残している。ご本人や面会時に家族と話し、情報を集約し、様子観察の結果なども用いてケア会議にて話し合い、ご本人の心身状態を加味した上で、介護支援専門員により介護計画を作成している	介護計画は短期目標3か月・長期目標6か月としている。介護計画変更時は家族の要望を聞き医師・マッサージ師・看護師の所見や情報も取り入れている。毎月のカンファレンスやモニタリングを参考に、担当者会議をし介護計画を作成している。利用者の体調に変化があれば家族や関係者に連絡をし随時作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は入居者様の日々の様子を介護記録に残し、全職員が目を通して、情報の共有、伝達に努め、申し送りノートや会議を開き、介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様・家族様にはそれぞれご事情があることを念頭に置き、個人の買い物の支援を行ったり、プライベートな問題であっても施設として出来る限り対応し、入居者様・ご家族様が安心できる対応をとっている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が施設・医療・地域・ご家族との繋がりがから途切れることの無いよう、また公共施設を利用するなど、施設・介護スタッフが間に入り連携を取っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調管理は2週間に1度の往診・歯科往診にて診察をしている。スタッフが日々の様子を伝え投薬・治療をして頂くが、往診で対応できないことや、本人・ご家族の要望があれば、通院歴を鑑みて外部の医療機関の受診も支援している	利用者大半は協力医療機関の医師をかかりつけ医として月2回の訪問診療を受診している。中には入居前のかかりつけ医の往診を受けている人もいる。他の専門科の受診は家族の付添いを基本とし、家族が無理な時は主に管理者が同行支援をしている。歯科は、毎週土曜日に訪問治療は希望者のみ受け、口腔ケアは全員が受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様に変化があった場合や気付いた事は、都度記録に残し、看護師報告している。必要であれば医師の診察を受けれるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は施設より、退院時には病院より看護サマリーや介護サマリー・医療情報を送受し連携作りをしている。また入院中の医療機関からの連絡にも速やかに対応し関係を築いている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応については、施設入居時に説明を行っている。入居者様に終末期の様子が見えた時には、ご家族様との話し合いの場を持ち、要望を取り入れ、支援を行う。何かあればその都度主治医・ご家族様に報告し対応する体制を整えている	入居説明時に利用者家族等に看取りに関する指針を示して同意を得ている。重度化の時点で医師、管理者、計画作成担当者が「看取り介護に関する説明書」で説明し、改めて家族等に意思確認のため「同意書」を交わし、看取り介護計画を立て、夜勤者を含めた関係職員とカンファレンスをする手順としている。現在、事業所として初めての看取り介護支援が進行中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変・事故発生時に備え、緊急時のマニュアル等を用い、会議などで再確認したり、勉強会で対処方法を学ぶなどして知識を身につけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域消防署の協力を得て年に2回の消防訓練を行っている。コロナ禍の為、現在は実施できていないが、今後は自治会などと連携して消防訓練などに参加してもらったり、地域の災害訓練にも参加したいと思っている	併設施設と共同で昨年6月に夜間想定 of 火災避難訓練と通報訓練、12月に地震想定 of 避難訓練を管轄消防署に届けて実施した。自治会長を通じ地区消防団担当者に火災発生時の協力を依頼している。災害備蓄は飲料水やアルファ米等の食料は1階倉庫、カセットコンロ、懐中電灯等の防災グッズは外の倉庫に備蓄している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念でもある「尊敬の意」を持って、高齢・認知症を抱えていても、一人の男性・女性であることを意識し、プライドや尊厳を傷つけないように接するようにしている。また、ご本人のやる気を生み出すような声掛けを行っている	管理者は、今年度から年間研修計画を立て、その中で身体拘束・虐待防止研修、接遇・倫理研修、プライバシー研修を動画で職員に受講させている。利用者を尊重し、人権に配慮した介護の徹底を図っている。毎月の職員会議に於いては日頃の介護の中で目についた利用者に対する不適切な言葉や支援の例を挙げて注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの思いを押し付けたり、スタッフがご本人の意思を決めてしまわず、入居者様の思いや希望が聞けるように、ご本人の発言は聞き逃さないように、選択しやすい声掛けを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の体調を考慮しながらそれぞれのペースに合わせた1日を過ごしていただけるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には更衣・整容を行い清潔保持に努めている。2カ月に1度の訪問美容を利用し、カットやカラーも好評である		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者様の咀嚼・嚥下力を踏まえ、体調に応じ提供している。片付けや食器拭きなどお願いし積極的に協力して頂いている	食事は、食品専門業者の献立と食材を調理専門職員がキッチンで調理し提供している。おせち料理、ひな祭り、クリスマスなどでは行事食も提供している。カップラーメンなどの利用者の好みものを提供したり、利用者と一緒にどら焼きやケーキなどのおやつ作りを楽しむこともある。外食は、コロナ禍のため人数は避けて個別に回転ずしやカフェに行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は入居者様の状況を見て、個々に応じた量を提供している。毎日、食事量・水分量は記録し状況把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、就寝前には義歯洗浄も行う。なるべく自己にて口腔ケアをできるよう促すが状況に応じてスタッフの介助や歯科往診にて歯科衛生士にお願いすることもある		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の体調・タイミングを見ながら声掛けを行い、最低限のサポートで残存能力を活かす支援をしている。排泄チェック表での排泄パターンを把握している	日中は、布パンツ着用の自立している利用者も数人いるが、個々の利用者に応じた排泄支援に心がけている。個々の排泄パターンを把握し声掛け誘導し、排泄状況を確認し、個々に合った支援に努めている。日中は大半の利用者はリハビリパンツを着用している。夜間は利用者の良眠に心がけ、見回りを行いながら排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・飲み物を工夫したり、散歩や体を動かすことを取り入れるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の体調を見ながら週2回の入浴を実施している。意思を確認し気持ちよく入浴をしていただける声掛けや入浴剤を使用するなどの工夫をしている	入浴支援は週2回、本人の希望により午前、午後、時には夕方に一人介助で見守りながら行っている。入浴拒否の利用者には別の日に入浴できるように支援をしている。重度の利用者には1階の機械浴で入浴支援を行っている。毎回お湯を入れ替え、入浴剤やゆず湯などの季節湯で気持ち良く入浴できる支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の意思を聞き、日中に居室で過ごすなどして頂く。安心して気持ちよく安眠できるよう、清潔な居室・布団環境を維持する為居室清掃やリネン交換を行い、日中は昼夜逆転しないよう活動を取り入れることに努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の既往歴や服薬内容について理解し、服薬介助時には入居者様の口腔内確認まで行い、様子観察を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様が必要とされていると実感できるように積極的にお手伝いなどを依頼し協力して頂いた後には「ありがとうございました、助かりました」等のお礼の言葉を伝えている。また、季節の行事や誕生日会などイベントを行い、非日常を楽しんで頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の体調を見ながら出来る範囲で散歩を行っている。	コロナ禍であるが、日常的に前の団地の公園に少人数ずつで散歩に行っている。車で近くの川の土手に咲くつつじを見に行ったこともある。また個別に回転ずしなどの外食に行く支援も行っている。また感染対策の徹底を条件として家族との外出を認め、利用者の中には今年の正月を自宅で過ごすため外泊した人や家族と車で出かけた人もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在施設では金銭管理をしていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居様が「電話をかけてほしい」と訴えられることはあるが、基本的に対応はしていない。携帯電話を持っておられる入居様はいておられる。手紙でのやりとりは、発信・受診対応は行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝・昼・夕のメリハリをつける為にもカーテンや窓を開け光や風で季節を感じて頂いたり、室温をこまめに調整している。動線を考えて椅子やテーブルの配置も確認している。入居者様とスタッフで四季折々の作品を展示している	居間兼食堂は、窓が広く採光が良いので明るく、壁面には、利用者と職員で作った節分の鬼のお面や様々な花の折り紙が飾られ季節感に溢れ、ソファやテレビも置かれて寛げる空間となっている。全館にはオゾン脱臭装置、高度清浄加湿装置が取り付けられて環境とウイルス感染症対策に配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアではテーブルやソファにて入居者様同士で談笑したり、交流を深めて頂いている。フロアで新聞を読んだり、なるべくフロアに出てきていただけるように声を掛け、それぞれの居場所を確保している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は自宅からの家具やテレビなど、ご入居者様・ご家族にお任せし、好みのものを使用して頂いている。居室の認識をして頂き快適に過ごして頂けるようにスタッフは清潔保持のサポートを行っている	利用者は自分の部屋に使い慣れたカウチや整理ダンス、思い出の写真、孫のライブ演奏会の写真などを思い思いに持ち込んで居心地良くしている。仏壇を持ち込む利用者やアンプ、スピーカー、多数のCD、バイオリンを持ち込み音楽を楽しむ利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札、トイレには掲示紙を貼り、場所認識を意識している。入居者様の出来る事、わかる事の維持を目指し、スタッフは過剰介護にならないように注意している		